

物部川水系河川整備基本方針(案)の概要

流域及び河川の概要

- 河床勾配は、上流部で1/40、中流部で1/145、下流部で1/280の急流河川で、河口部まで扇状地が広がる。
- 左岸側は河岸段丘のため、洪水の氾濫域は限定されるが、高知龍馬空港や住宅等が多くある右岸側が破堤した場合は広大な範囲が浸水し、被害は甚大。
- 本川上流沿いに仏像構造線が存在し、崩壊しやすい地質

流域及び氾濫域の諸元

流域面積 : 508km²
 幹川流路延長 : 71km
 想定氾濫区域内人口 : 約6万人

- 凡例
- 直轄区間
 - 物部川流域
 - 想定氾濫区域
 - 基準地点
 - 正常流量基準地点
 - 国道
 - 高速自動車国道
 - 鉄道
 - 高知龍馬空港



災害の発生の防止又は軽減

- 工事実施基本計画策定後に計画を変更するような出水は発生しておらず、流量確率(1/100相当)による検証、既往洪水からの検証により、基本方針においても既定計画と同様に基本高水ピーク流量5,400m³/s(深淵)と設定。

流量配分図

基本高水のピーク流量
5,400m³/s

→ 4,900 →

太平洋

深淵 (単位: m³/s)



昭和38年8月洪水

- 基本高水流量と計画高水流量の差分については、既存の洪水調節施設により対応
- 堤防の新設、堤防の引き堤、河道掘削等により河積の増大
- 急流河川特有の洗掘や侵食に伴う破堤被害等を防ぐため、高水敷の確保や水制工・護岸等を整備

河川環境の整備と保全

- アユ等の産卵場や生息場となる瀬の保全
- 濁水とその長期化を改善するため、関係機関と連携し、土砂流出の抑制等の流域対策を推進するとともに、ダムでの濁水の有効な排出方法を検討



野市ふれあい広場



砂礫河原と瀬(アユ産卵場)



深淵濁水状況

河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持

- 動植物の保護・漁業など9項目の検討により、維持流量を設定し、水利流量、流入量を含めて正常流量を杉田地点において、かんがい期に概ね18m³/s、非かんがい期に概ね10m³/sに設定